

ネパール支援へ意見交換

AMDA 高校生会 倉敷で帰国報告会



AMDA高校生会のネパールスタディーツアー帰国報告会

AMDA（アジア医師連絡協議会・本部岡山市榴津）の活動に協力する高校生でつくる「AMDA高校生会」が二十一日、倉敷市玉島柏島の国民宿舎良寛荘で、ネパールを訪ねたスタディーツアーの帰国報告会を開き、地元の高中生と国際支援について意見交換した。

AMDA高校生会のメンバー六人は、貧困に苦しむネパールの子供たちを支援しようと、二日から七泊八日の日程でブトワル市を訪問。AMDAが建設を進めている子ども病院の建設予定地のほか各地の学校や養老院などを訪ね、ストーリートチルドレンの現状などを視察した。

報告会は今後のボランティア活動の参考にしようとして、玉島商高（倉敷市玉島中央二丁目）の生徒会などの要請で実現。玉島商高の生徒、教諭計十四人とAMDA高校生会メンバーの岡山高二年三原祐二君（二才）岡山市津島新野（二才）六人が参加。三原君らは「養老院ではベッドもなく廊下に寝かされている人がいた」「子供たちは貧困にめげず明るく過ごしている」などとネパールでの体験を話した。

玉島商高生徒会長の三年三宅弘明君（二才）倉敷市玉島柏島は「ネパールの人たちの生活の現状などがよく分かった。高校生として何ができるかを考えていきたい」と話していた。